

## 恵庭市総合計画審議会（会議記録）

会議名	恵庭市総合計画審議会 第2回 会議	
日時	平成17年1月24日(月)午後2時00分～午後3時40分	
会場	市役所(3階)301・302会議室	
出席者	委員～出席20名(※欠席委員1名) 市側～黒氏市長、永田助役、竹村企画財政部長、斉藤企画財政部次長、菅原企画調整課長、吉田主査、佐々木主査、広田主査	
記録	氏名	企画財政部企画調整課 主査 佐々木 信行

### 1.開 会

### 2.審議事項

- (1) 第4期恵庭市総合計画について(諮問)
- (2) 恵庭市の現状と課題について
- (3) 総合計画審議会専門部会の部会長・副部会長の選出について

### 3.その他

### 4.閉 会

---

#### ○ 会議の概要

- ・ **審議事項の(1)** 「諮問について」



黒氏市長から「第4期恵庭市総合計画」について村本恵庭市総合計画審議会議長に諮問書が手渡されました。

- ・ **審議事項の(2)** 「恵庭市の現状と課題について」

(村本会長) 大変ご苦労様です。最初に、前回の会議で欠席されていた橋本委員、吉岡委員のお二人が出席されています。ここで両委員から自己紹介をお願いしたいと思います。 ※吉岡委員、橋本委員の順に自己紹介。

**(村本会長)** 次に、これからの進行でございますが、昨年の暮れに開催した第1回目の審議会において、事務局から資料が提出されております。各委員には師走、新年の忙しい中、それぞれ、ひと通り資料に目を通していただいたかと思っております。したがって、ここで改めて事務局から説明を聞くのではなく、疑問点や質問等を含めて「これらのまちづくりについて」の思いを順番に話していただきたいと考えております。最初に青年会議所の玉川委員からよろしくお願いいたします。

**(玉川委員)** 以前、恵庭市の都市計画マスタープラン策定に関わらせてもらった中で、参加された市民の皆さんからもまちづくりに向けた様々な意見が出されておりました。第3期総合計画を見させていただいた際、現在、恵庭市の問題点はこうであるとか、恵庭市の特徴がこうであるとか、先ほど市長が話されましたが、10年の間にそのすべての弱点がクリアされて、さらに長所がより発展的に機能するかというのは、若干、どうなのかなという気がしております。私は「都市環境部会」ですから、恵庭にある水、緑とか、公共交通網そういうものがすべて一度見直しをしなければならないのか、それとも新しく作るのか、リニューアルするのか、その辺は皆さんと議論しなければならないのかと、ただ都市環境部会の中では、たぶん第3期総合計画の「ハイコンプレックスシティ構想」というのが、これから厳しい時代を迎えて、それが一つの論点になるのかなという気がしております。

**(丹伊田委員)** まだ論点が定まっていますが、個人的に、全体の枠としてはいろいろな価値観が変わっており、ハードからソフトへ考え方が切り替わってきていると思っています。その中で教育だとか福祉だとか、他のシステムもそうでしょうが、今まであまりにも行政サイドの効率が重視され細分化され過ぎているような気がします。一つひとつの効率を追求するあまり細分化され過ぎ、トータルで何かものを見るという、そういうものが無くなってきたのではないかと思います。それをもう一度見直す必要があるのではないかと。

昨日、北海道新聞で福祉施設を取り上げた記事がありました。富山県のNPO法人「このゆびと一まれ」が紹介されておりましたが、この施設のように、効率だけを重視したものではなくて、高齢者も障害者も子供たちも、障害の有無にかかわらず一緒に利用できる複合的な機能を持たせたものを第4期の計画にもっていければいいのだらうと思っています。

**(橋本委員)** 学校教育の視点から、小中学校を含めた学校という現状を捉えた中で意見を述べたいと思います。最近、文部科学省が学力低下を理由に2002年にスタートした新学習指導要領にもとづくゆとり教育を、また見直さなければならないという考え方を示しているようですが、今、ゆとり教育で示されているのは「心の教育の重視」であり、総合的な学習の中で地域と家庭等がどのように連携して子供たちを育てていくのか、ということが大事になると考えています。施策の中にも盛り込まれるものと期待しています。また、特殊教育学級は「特学」と呼ばれていますが、これも普通学級の子供たちと一緒に学べるような特別支援教育が検討されています。そうすると、なおさら学校だけではなくて、養護学校とか福祉関係や医療関係

など地域との連携が求められてくる。そういうことが反映されているような計画であれば大変ありがたいと考えています。

**(長谷川委員)** 私は人生80年代の80に近いので、たくさん夢を語ります。一つは、先ほど市長さんも話していましたが、社会情勢が非常に変化したことを的確に捉えなければならないんだろうと思います。食べる物から始まって子供たちが学校へ行って帰るまで、勉強以外の事まで心配しなければならない。いろいろな災害や事件も日常茶飯事に起きている。安心・安全の社会をどうして作ったらいいのかという事が非常に重要な課題ではないかと思います。それから「国民生活白書」に恵み野の「花と緑のまち」というのが全国に紹介されています。それからアンケート、もっと数があれば信憑性があるのですが、しかし、やむをえないと思います。その中で皆さんが考えているのは、恵庭に与えられた自然環境で、やはり水と緑とこの自然をどう生かすのかが重要な問題です。また、恵庭の近くには空港があって大変な数の交流と移動がある。それが恵庭に立ち寄らず直接札幌へ行ってしまふ。これをくい止めなければなりません。

今度、漁川の国道36号線の近くに「道と川の駅」ができる。折角ですから札幌まで全部見えるような大きな建物を作って欲しい。次に、芸術文化に相応しいカリンバ遺跡。これも大いに誇りにできる文化遺産。その意味でこれをひっくるめたスローガンを皆さんの知恵を結集して掲げましょう。

ここに住んでいろんな場に出る機会がありますが、「市民憲章」というのがあって、市の大きな行事では市民憲章の朗読等が行われる。私はあの市民憲章の中で、最近、特に思うのですが「自然を愛し、緑の美しいまちをつくりましょう」というのがある。それから「知性をたかめ、かおりゆたかな文化のまちをつくりましょう」や「きまわりをまもり、住みよいまちをつくりましょう」と、実に良い言葉がある。あれは市内の小学生は全部知っていると思う。あれを一つ大人も含めて、例えば緑の美しいまち、安心・安全、そして芸術も高められるようなまちにしようとか。そういうものをなにか作ったら、市民憲章が生きたものになるのではないかと思います。私の夢を語らせてもらいました。

**(原田委員)** 仕事の関係もあり地域振興部会なのだと思いますが、商業関係や女性としての立場から、自分の意見を述べて夢のあるまちづくりを考えていきたいと思っています。よろしくお願いいたします。

**(松尾委員)** 第4期の計画に関わることになりましたが、自分が恵庭に住むようになってからの農業の変革を思い出してみました。学校を卒業し農業に携わったのが昭和41年。当時、家の前の基線道路にしても、南21号や南24号にしてもみんな砂利道でした。あの頃、トラックや2トンダンプが建設関係で走り出した時期で、車のホコリがまったり砂利が飛ばされても、誰も危ないとか思ったり言う人はいなかった。のんびりしていたというか、互いに包容というものがあつた時期なんだと思う。恵庭市は昭和40年後半からの高度経済成長時代に、一気に都市化の波に乗り、第1期の総合計画が策定され現在に至っていると思う。今、国の三位一体改革による

地方交付税の減額の中にあつて、行政自体も見直しが必要になると思う。昨年1年間を振り返った中で、地区の説明会でもあったと思うのですが、総論では皆さん良いと言うが、いざ各論になるとほとんどの人が必要だと言う。先ほど、何方かが言っていました、今の時代背景を的確に捉えなければならないと思う。スクラップアンドビルドしながら、次の時代の若い人たちのために恵庭市の時代背景を作っていくことに焦点を絞って考えていく必要がある。そういう意味では、特に一次産業の農業の分野においては、後継者が20%を切る状況にありとても深刻な状況となっている。これは農業だけの問題で言えない課題であり、全市的に市民の皆さんからの理解を頂きながら、どうやって農地、緑地を継続していくか真剣に考えていただきたいと思っています。

また、今後のまちづくりを考える上で、まちが環境整備をされて綺麗になると、農村部に日常生活のゴミが捨てられるという現実があります。5年前、原田道議にお願いして北海道の「ポイ捨て条例」を作っていただいたのですが、効果が現れていない。恵庭のまちのイメージは、花や水だと全国的に知られている時期であり、今後のまちづくりの中で検討すべき課題であると考えています。

**(吉岡委員)** 立場上、自治体の計画にも携わってきましたが、大体は7千とか8千人規模のまちで、明日どうやって食べていくかというような小さなまちです。これに比べ、恵庭市はまだ新しい計画をたてられる余力と時間がある分において、計画のやりがいがあると感じています。しかし、今までの第1期から第3期までの計画と、これから作る新しい計画は全く中身・性格が違うのだと思うのです。第3期までの計画では、成果分の分け前を皆で考えればよかった。しかし、これからは成長しない社会。かつて決まった分をもう一度見直していかなければならない計画になつてくる。行政と市民の関係もシビアに見直さなければならない。これまでは行政にすべてお任せでしたが、市民だって公共になりうるし民間企業も公共を担えるわけです。今までは大部分は市役所が担ってきましたが、この部分は市民が担う、この部分は民間がやる、ということが頭出しされた計画でないとう駄になってしまう気がします。また、市民が動きやすいような場をどう作るかが課題。仕組み、話し合う場をどう作っていくのかを明らかにすることが大切です。

もう一つは未来へ何を投資するのかを考える必要がある。先ほど市長は、第3期総合計画では1千億の事業を見込んでいたが、実績は7百億円程度になると話されました。これは市の自主材源の持ち出しは年間30億円程度になるものと思われませんが、仮に30億円だとして、その使いみちとして、どこに・何にまとめて投資するのかメリハリをつけていく必要があると思うのです。恵庭らしさが花・水・緑ならば、ではそれからどうなるんだということを構想しなくてはならない。恵庭らしさというものをもう一步踏み出して考える必要があるのではないのでしょうか。恵庭はまだ高齢化率が低いまちですから、これから10年で変えていくことができると考えています。

**(池永委員)** 今、まちづくりで提案されていることは結構多いのですが、私は商売をやっているせいか、地元にお金を落としていただくことを常に考えています。今「シ

「ニックバイウエイ」とか花に関わった活動をしています。昨年、恵み野の幼稚園の側にある市有地約700坪を1年間借りて花畑をつくりました。廃品回収をしながら経費を捻出して地域の皆さんの協力で作りました。今、恵み野には、花を見に来る人が増えています。ところが地元にお金を落としてくれない。見学に来て「綺麗だね自分の家もこうしたいね」というだけ言って帰ってしまう。それだったら、市の財源を生かしきれていないのではないか。恵庭を花と緑のまちとして掲げるならば、例えば、花と盤尻の景観、それから何万年前の断層を組み合わせたか、観光バスを走らせるとか、花と農村地帯の新鮮野菜のもぎ取りツアーを組むとか、観光を目玉にするような形に持っていけたら良いのではないか。

恵庭は札幌から空港の間にある素通りのまちとのイメージがあるが、「道と川の駅」が出来れば、恵み野のガーデニングや盤尻の景観、農村、サッポロビール工場を組み合わせることで、観光の目玉が作れるのではないか。そうなれば、恵庭のまちにもお金を落としてくれるし、市の財源も豊かになる。そんな10年間の計画ができればよいなと思っています。

**(井関委員)** 私は異業種交流会(事務局/恵庭RBパーク)の立場で参加しています。そんな観点から、工業関係の分野での話をしたいと思っています。異業種交流も、事業性なり新しい商品化を狙っても現状では厳しいのかなという気がしています。思考・発想を変えてみることも必要なのではないのでしょうか。苫小牧では、アイデア研究会とかという組織を作って市民と一緒にやっています。工業関係者も入っていますが、ほとんどが高齢者や主婦等の一般市民の方々。生活の中から身近なアイデアを出し合い商品化している。うらやましい感じです。恵庭でも主婦やこれから増えてくる高齢者の皆さんが、いろいろアイデアを出し合って、何か新しい商品を作り出す、大掛かりな大きな会社を作ろうという発想ではなくて、少しでもまちの活性化の一端を担っていくような雰囲気づくりというのが必要ではないかと思っています。

それから、恵庭市の5年、10年先の財源がどうなっていくのか。今、230億円という歳入の財源も5年先には減ってくる。誰もがそう予想していると思う。人間というのは、仮に収入が50万円あった人が、20万円に減っても、生活のレベルを一気に落とすというのは並大抵ではできない。市だって、収入が減ったら減ったなりのまちづくりをしようと思っても、そんな発想になれないのではないか。それと、昭和20年前後の方が高齢者となり増えてくる。そうなれば、市も介護だとか保健医療の面でお金がかかり、財源が乏しくなり苦しい時代を迎える。元気で体を動かし頭を使うようになれば病院に行く回数も減ってお金を余分に使わなくて済むようになるわけです。そんなことから、お年寄りが商品化に向けて恵庭の何かを持ち寄ってアイデアを出し合うことは、心身ともに元気になっていくようなムードづくりにつながるのではないかと思います。財源の確保の一端を担っていけるような、ここに農協の専務さんがおられますが、食材を利用して何かをすとか、一般家庭にあるペットボトルを何かと組み合わせて利用できないのか等、主婦の皆さんの素晴らしい発想とアイデアが生かせるような、そんな雰囲気を総合計画の中にも反映でき

ればと思います。

**(岡田委員)** 私は地域振興部会に参加するというので、第3期総合計画書の産業について見てみましたが、工業出荷額は10年前とほぼ同じで、異業種交流についても計画に盛り込まれている。これは黙っていると、これと同じ計画書が出来てしまうのではないかと感じてしまうところがある。ただ、先ほど市長さんが話されていましたが、市の財政問題等もあるので、これからは選択と集中、言い過ぎかも知れませんが、やることをもっと集中化し、投資もそこに集中していくことを英断的にやっていかないと、総花的に何でもやって行きましょうということにはならない。

もう一点、これは質問ですが、第3期総合計画の状態について資料の中で若干触れていますが、これから4期の計画を考えて行く上で、第3期のどこを残さなければいけないのか、あるいはこれはやめようとか、そういう判断が必要になってくるのではないかと。その意味で第3期計画の評価が必要になると思う。これから新しい計画をたてるわけですが、10年経ったらこうだったのではなく、例えば10年後をどのくらいの大きさにするのだという目標を立てた上で、そこをモニタリングしていく必要がある。5年後に再見直しをするのではなく、2年ごとに目標のどこまでが達成しているのか、あるいは微調整するものはないのか等、そういう仕組みを盛り込んでいくことが必要になると感じています。

**(村本会長)** 第3期の評価について、助役から説明をお願いしたい。

**(永田助役)** 新しい総合計画の策定に向けて、第3期の検証は当然しなければならないと認識しており、現在、事務局でデータを取りまとめている。これがまとめ次第皆さんにご提示したいと考えています。

**(竹村部長)** 事業のとりまとめを全庁で進めているが、今、第3期の最終年となる平成17年度予算を組み立てている最中。もう少し時間をいただきたい。

**(島田委員)** 昨年、市民まちづくりワークショップで座長を務めたことから、今回、委員として参加させていただいています。私の専門は、介護保健や医療の分野です。いずれも保険料を上げても上げても追いつかないくらいにお金がかかっている、自己負担も増えています。また、介護保険ではサービスを厚くすればするほどお金がかかるという現状があります。今、国ではこの2月に介護保険制度の見直しが予定されています。また医療保険に対しても2年に1度の見直しが常に行われています。これらの点から、全国的な視野でより良い、医療、介護、保健のシステムを構築して行く必要があるでしょう。

先に、まちづくりワークショップから市に多くの提言をさせていただきました。参加した皆さんの意見として、恵庭市はハード部分がだいたい整っており、後はこれをどのように使っていくかが課題であるというのが大方のコンセンサスでした。お金有効に使いながら実のあるまちづくりを考えていく必要があると思います。

**(高畠委員)** 私は介護の現場に勤めているものですから、高齢者が中心の内容になるかと思います。高齢化、少子化は恵庭市でも正に教科書どおりに進んでいると思つています。こうなると、高齢者をどう支えていくかになるのだと思います。今、介護の話がありましたが、皆さんは介護保険で何でもやってくれるというイメージを持っているようです。実は内容的にはかなり削減されています。人によっては介護保険のサービスだけでは生活ができなくなる事例も出てくるのが考えられます。そんなお年寄りを誰が支えていくのか、まずご家族ですが、家族においても事情があり支えられなくなる。そうなると地域の皆さんに支えてもらわないと生活が維持できないことがおきる。十分に考えられますし、昨年、こんなことがありました。団地生活をされているお年寄りが、この雪道にゴミ袋を持ちながら近くのゴミステーションまで持っていくわけですが、その時、転倒という危険性があるわけです。事実、何人もの人が骨折してしまつたことがありました。このようなお年寄りを誰が支えるのか、今の制度では何もできない。そうなれば地域の皆さんの協力がないと駄目なわけです。今、私たちの施設にも学校の総合学習で小学生が介護の体験実習に来ています。子供たちが福祉の現場でお年寄りのケア、関わり方について勉強していただくことは、将来を考えると大切なことだと感じています。

**(中村委員)** クラシックバレエを教えています。小学校1年生の女の子を持つ主婦でもあります。このような場は今まで経験がなく、自分なりにメモしながら皆さんの話を聞いているところですが、私が感じているのは、恵庭のまちにお金を落としていただくことを考えたかどうかということです。市内にカウボーイの全天候型の子供たちが遊べる施設がありますが、ここに苫小牧や札幌からも多くの人々が来ている。なかなか恵庭の子に会えないくらい市外から来ています。日曜日にもなると500人は来ているのではないのでしょうか。一人1,000円としても相当額が使われていることになります。例えば、既存の建物を改造して子供たちの遊べる全天候型の施設を作り、お母さん方の読む雑誌に掲載するなど市外にPRすれば、なんらかの形で恵庭市にお金が落ちるのではないかと考えています。それと、少しのお金でも、一步踏み出して変えていくことで、別の視点が見えてくる。その様なことをやりながら大きなこともやれると良いなと感じています。

**(吉田委員)** 恵庭まちづくり市民の会とえにわシーニックプロジェクトで活動しています。恵庭をいかに宣伝するかというグループではないかと思っています。私は恵庭の4代目で曾おじいさんの代から恵庭に住んでいます。今回、市役所からいただいた資料の中で2千人を対象にした意識調査の結果がありましたが、この中でビックリする内容のものがいっぱいありました。例えば、恵庭でガーデニングを一所懸命に進めているのに知らないとか、総合病院を作って欲しい、24時間のパークゴルフ場を作って欲しいとか、これは一体誰がお金を払うんだろうと考えてしまいました。言葉は悪いですが自分のことしか考えていないのではないかと思います。2年前に市民の会で小学生も参加して恵庭のまちのどこが好きですかと言うフォーラムを行ったのですが、参加した小学生からとても良い意見がだされました。市役所と市民の間を近づけたいというのが市民の会の活動です。これまで

にも、除雪に関するフォーラム、ゴミに関するフォーラムも開催しました。参加した皆さんからは、除雪作業は大変と話す方もいますが、自分のところを何とかして欲しいと言う方もいる。水道料が高い、分かりづらいと言う話も聞きます。恵庭市の水道料のシステムがどうなっているの、これは何回か広報で取り上げられていると思いますが、最近移り住んで来られた方には分からない。市は市民にもっと知ってもらえるよう努力したほうが良いと思います。

また、恵庭のまちをもっと綺麗にするためにも、皆が家の前やチョットお隣に気を配ることで綺麗なまちになり、ゴミを投げる人も少なくなると思います。ソフト面とか人を育てるということなのですが、恵庭をもっと温かく皆が好きになるような10年の計画づくりができれば良いのではないかと。因みに、私は7年くらい続けて道内の「道の駅」を巡っているのですが、去年、洞爺湖の近くの豊浦に新しくオープンした道の駅に行ってきました。以前は車が数台とまっている程度だったのに、道の駅に登録した途端にたくさんの車が立ち寄っていました。売店でいろんなものを買っている人もいました。道の駅を反対しているという人が結構いると聞きます。今度、恵庭にも素晴らしい「道と川の駅」ができますが、恵庭を紹介できる最高の場所でもあり、そこで市民も子供たちも遊んだりすることも出来ると思います。皆が恵庭を大好きになるような計画を考えていきたいと思っています。

**(鏡 委員)** 私の話については、既に井関委員、島田委員と同じ意見ですので、そういうことで、あとは皆さんの意見を伺いたいと思います。

**(神田委員)** 私も恵庭に生まれ恵庭で育ちました。皆から聞かれるのですが、恵庭ってどんなところ、人口は何人、恵庭の顔って何ですかと良く言われます。私は、千歳空港と大都市札幌の間であって、盤尻の恵庭溪谷、田園風景、お米も野菜も、メロンや南瓜もあるしウキビも美味しいし、人口は6万5千人で、住宅団地の開発によって恵み野ができ、黄金、美咲野の団地にもたくさんの方が住んでいる。快速が停車して便利になったと話します。ところが、恵庭の駅を降りて休もうと思っても喫茶店や食堂もない。駅前通りには何もないと言われます。今、駅の裏には病院やホテルが建ち、食事も泊まることもできるようになりましたが、是非、駅前の開発が進めばいいかなと考えています。

**(佐々木委員)** 私は住んでいるところが札幌で、恵庭の専修学校で職を得てこちらに関わらせていただいています。今年3月で丸9年になりますが、恵庭の基幹産業は何かと思う時があります。農業なのか工業なのか、少し前にはハイテク都市を目指していた時期もあったかと思うのです。また、恵庭市は開発途中の住宅地もありますが、土地だけでなくいろんなものが開発の余地を残して眠っているのではないかと考えています。政令指定都市で社会サービスが出尽くした感のある札幌市に住んでいる者としては、まだまだ可能性がたくさんあるのじゃないかと実は思っています。

私の専門は児童福祉関係ですが、今、気になっているのが防災の事です。最近、大きな災害が起きたことも考えるきっかけですが、いろんな地域で頻発して起



きていることは、他人ごとではないと思うのです。先日、北海道新聞に柳田邦夫さんの「総合防災学の構築」についての記事が掲載されていました。少し受け売りになりますが防災ということを考えると、直接関わる自治体のセクションだけではなく、医療も福祉関係も、勿論、学校なんかと一緒に横並びで考えていく必要があると思います。観光面でももっと積極的にPRできる方法があるのではないかと感じています。

また、福祉のことでは、高齢者と児童ということが一般的に身近な問題になると思うのですが、島田先生や高畠先生が話されましたが、これから介護保険の運営がすごく厳しくなって、次年度の改正で介護を受けた時に一人ひとりが負担する金額が内容によっては一気に何万円も上がります。そういう中で、例えば国民年金だけで生活している高齢者が、本当に費用を負担していけるのかという大きな問題があります。介護保険ができたから介護認定を受けて介護を利用するという前に、利用しなくてもよいような状態に少しでも長くいることが重要だと思います。これまでは軽視されがちだった介護予防のことについて、もっとしっかり考えなければいけないと思います。以前からこのことは国では言われており、厚生労働省で「健康日本21」というプロジェクトに取り組んでいます。具体的に一人ひとりの市民にまで考え方が浸透しているといえれば疑問です。これからはそういうことも考えていかなければなりません。

子育ても子どものいる家庭だけではなく、地域全体で子どもを育てていくことが必要になると考えています。そのためにも、福祉関係では「小規模多機能化」とか言われていますが、入れ物が小さくても多角的構造的に機能させていけるような事業が必要なのではないかと思っています。思うのですが、島田先生や高畠先生が話されましたが、これから介護保険がすごく厳しくなって、次年度の改正で介護を受けた時に一人ひとりが負担する金額が一気に何万円も上がります。そういう中で、例えば国民年金だけで生活している高齢者が、本当に費用を負担していけるのかという大きな問題があります。介護保険ができたから介護認定を受けて介護を利用するという前に、利用しなくてもよいような状態に少しでも長くいることが重要だと思います。これまでは軽視されがちだった介護予防のことについて、もっとしっかり考えなければいけないと思います。

**(只野委員)** 水と緑豊かな複合機能都市というのは、私なりに、人が住みよいまちということが前提に立つと思います。満足させてくれるまちになれば、住みよいまちになる。それをどのようにするかを審議することになりますが、次代のために、衣・食・住を満足して実感できるまちを考えながら策定していければ良いと思う。

**(富永副会長)** 市民生活の視点から、生活環境を良くみていきたいと思っている。先程市長が財源は限りなく厳しいし不透明感があると話されていました。理想と現実をどうやって調和するか大きな視点になってくるのかなという気がします。先ほどから高齢化時代、少子化時代と言われていきますから、それにかかる投資もばかにならないものがあります。一点だけ、皆さんから意見が出ていませんが、北海道は3分の1が冬で、歩行をする上で雪はお年寄りにとってバリアーになっています。雪

対策をどうやっていくのかも、これから手をつけなければならない課題の一つだという気がしてなりませんので、これから審議する中で触れさせてもらいたいと思っています。

(村本会長) 時間になりなすけれども、どうしてもこれだけはもう一度言っておきたいという方がいますか。特にありませんか。(※ 特になし)

皆さんから、これからのまちづくりについて、それぞれの考えを述べていただきましたが、やはり、恵庭は住んだら素晴らしいまちだと私も思っています。いろいろな意味でこれから予算のない中、まちづくりをしていかなければならないことを考えると、市民にいかにか理解・協力してもらえようか計画を作れるかというところが一番大切かなと思っています。

それでは、審議事項の最後として、各専門部会の部会長・副部会長の選出に入ります。その事について事務局から説明をお願いいたします。

(事務局) 第 1 回目の会議において、各専門部会の割り振りについては既にご紹介済みということで、本日は各専門部会の部会長・副部会長の選出をしたいと思えます。尚、村本会長・富永副会長におかれましてはこの職から除きます。少しお時間を拝借致しまして教育福祉部会が 8 名おられますので、隣の部屋の 303 会議室に移動願いたいと思えます。また、都市環境部会の方々は、この部屋の時計側の方にお集まり頂きたいと思えます。地域振興部会の方々は、私の方にお集まり下さい。

※ 各専門部会に分かれて選考会を開催。結果、以下のとおり選出されました。

都市環境部会	会長 / 玉川 裕一	委員	副会長 / 神田美佐子	委員
教育福祉部会	会長 / 島田 道朗	委員	副会長 / 橋本 清司	委員
地域振興部会	会長 / 松尾 道義	委員	副会長 / 井関 好雄	委員

(村本会長) 本日は、以上をもちまして審議を終了といたします。ご苦労さまでした。

会議終了：午後 3 時 4 0 分